

〔別紙2〕

審査の結果の要旨

氏名 田中 康夫

本研究は、タンザニアにおけるコンゴ難民を対象とした HIV 感染予防及び感染リスクにかかる実態調査である。系統的無作為サンプリングにより 60,700 人の難民から生殖年齢にある 1,140 人を抽出し、構造化された質問紙による調査及び集団討議が実施された。また、HIV 陽性者の難民 182 人に対しても、同様の質問紙による調査が実施された。国連難民高等弁務官事務所などの協力を得ることによって、信頼できるサンプリングを実施したこと、比較的大規模なサンプルを対象としたことなど、HIV 感染リスクが高いにも関わらず関連する情報の乏しい難民集団について、以下のとおり具体的な情報を提示した。

1. 系統的無作為に抽出した難民 1140 人のうち祖国脱出当事の年齢が 15 歳（生殖年齢）以上の 682 人による金・物目当ての性交渉の経験者数が、難民になる前よりも難民キャンプにおいての方が有意に多く、HIV 感染リスク要因が増加したことが明らかになった。また、祖国脱出当事の年齢が 15 歳未満の 458 人についても、金・物目当ての性交渉の経験者数及び性犯罪被害経験者数が、難民になる前よりも難民キャンプにおいての方が有意に多く（但し、祖国脱出前での生殖機能の未発達度を考慮する必要あり）、HIV 感染リスク要因が増加したことが明らかになった。
2. 同上 1140 人の殆どが HIV エイズについて聞いたことがあると答え、感染予防の知識と態度のレベルは高かった。しかし、同上 1140 人の 30.4%が過去 12 ヶ月間において最低一人の不定期パートナーと性交渉を持っていた。コンドーム使用は定期パートナーとの性交渉において 20.0%、不定期パートナーとの性交渉においては 13.6%に止まるなど、予防行動のレベルは低かった。HIV 予防にかかる女性の知識、態度および行動のレベルは男性に比べて有意に低かった。
3. 不定期パートナーとの性交渉においてコンドームを使用した難民と金・物目当ての性交渉をした難民との間に関連性が見られた ($<.001$)。
4. 難民キャンプにおける HIV 予防教育でコンドーム使用者に最も影響を与えたのは、ラジオ（隣国のブルンジやコンゴが毎時 3 分間程 HIV 予防メッセージを放送）、次いで難民スタッフ（特に、youth peer educator/YPE と health information team/HIT）であるなど、難民同士の仲間教育の有用性が示唆された。仲間教育は、男女および年齢層の違いにより難民が影響を受ける情報提供者が異なっていた。

5. HIV陽性者の182人と、系統的無作為に抽出した難民の中でHIV陰性であると答えた461人の比較において、前者の方が後者より、同居パートナーの割合および就労活動の割合が有意に低かった。前者は後者より、HIVに関する知識について有意に高いレベルにあったが、貞操にかかる態度については有意に低く、不定期パートナーの人数および金・物目当ての性交渉経験においては有意に高いことが明らかになった。

審査会においては、各審査委員から概ね以下の指摘があり、同指摘事項について論文の修正が行なわれた。

- 難民流出前後のHIV感染リスクの比較を示したTable 2は、流出前の時点で生殖年齢に達していなかった者も含まれているため、そのことを踏まえた分析をすべきである。
- Table 3、4、5は質問毎にnが異なるが、全回答者1,140人を母数とする統一した見せ方をすべきである。
- Table 8および9（HIV陽性者と陰性者の比較）において、各々の回答者が同じ母集団に属していることを論文中で明確に記せ。
- Figure 1（定期および不定期パートナーとの性交渉でコンドームを使用しない理由）をマクネマー検定にする必要性が認められない。
- 難民流出後におけるHIV感染リスク増加（金・物目当ての性交）の背景として、集団討議の結果から、①難民の農業技術の欠如（漁民であったことに起因）、②土地生産性が低い等を指摘するが、それらの根拠を明確にするべきである。それが不可能であれば、これらを考察として説明することには無理がある。
- データ収集における田中の役割を記せ。
- 東大倫理委員会およびタンザニア当局の許可のことについて記せ。
- 本文中%だけでなく実数(。。。/。。。)を併記した方が読みやすい箇所は適宜修正せよ。
- 今回の研究結果に類似する状況が他の難民キャンプでもあるならば記せ。

これまで、難民キャンプでの救援活動におけるHIVの予防対策とその効果検証には十分な介入が行われておらず、難民のHIV感染、感染リスクや感染予防にかかる知識、態度、行動の実情を殆ど把握できてこなかった現状にあって、本研究は、難民集団のHIV感染リスク管理に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。